

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第16号
2018(平成30)年4月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

記録を残すことの意義 — かけがえのない宝物 —

『広益国産考』という全8巻の書物があります。『綿圃要務』の著者として知られる大蔵永常の作品です。大蔵永常は明和5年(1768)、豊後国日田(現在の大分県日田市)の農家に生まれ、生涯を農学の研究に尽くし、数多くの農書を刊行しています。『広益国産考』はその集大成と位置づけられる作品です。

その『広益国産考』の第1巻、第5巻、第7巻に綿に関する記述があります。中でも第7巻の「棧留縞を織糸拵(さんとめしまをおるいとこしらえ)」には、糸紡ぎから、染め、糊入れ、糸繰り、へ方(経糸を機にかける作業)、巻き方、機織りの各工程の所用時間や、各素材の必要量、作業代金等が事細かに記録されています(『広益国産考』『日本農書全集』第14巻、農山漁村文化協会、1994年刊、第10刷、326-340頁)。はたしてここまで記録する必要があるのかとさえ思われる綿密な記録ですが、これらの一見、無意味に思われる記録が、いざ同じ作業をしようとする際には、かけがえのない宝物となります。そのことを私は、佐貫尹『続 木綿伝承—先人に学ぶ手わざと心』(染織と生活社、2009年刊)を通して学びました。同書には、『広益国産考』に基づく、糸の紡ぎ方のイロハが記されており、糸を紡ぎ分ける要領など、私が欲して止まなかったデータと解説が掲げられています(同書14-55頁)。一见無意味に思われるようなデータであっても、それが具体的で正確でさえあるならば、大きな意味を持つことがあること(記録を残すことの意義)をあらためて教えられたような気がいたしました。

「理想的な正しい糸」というものは存在しなくても(本誌第10号参照)、「このような布を織るために必要とされる糸」は個々に存在します。その個々のデータは、かけがえのない宝物です。

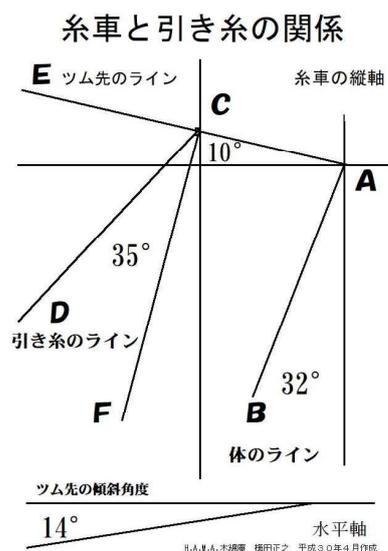
今回は、今わたしが使用している糸車と、私の糸の紡ぎ方を記録にとどめておきたいと思います。いつどこで、参考になるときがあるかもしれません。

糸車は京都西陣の「稲垣機料」製。車輻(スポーク)は竹製ではなく厚手の木材のため、回転はやや重い。

糸を紡ぐ際の糸車の縦軸に対する体のライン(AB)は 32° 。ツム先のライン(AE)は、糸車の縦軸に対する垂直軸より、向こう側に 10° 傾けています。また、水平軸に対して 14° 下に傾けています。引き糸のライン(CD)は、ツム先のラインに対する垂直軸(CF)からは 35° になります。

ツム先は、購入時に調べられてあった竹皮縄が破損したため、木綿ロープを用いて自分で調整し直しています。

糸を引く際の糸車の回転数は、ツム先から6.5cm引き延ばす際に3.5回転。手許の糸を留めてから2回転。このペースで引いた糸は、重さ25.2gで、長さ79.2m。直近のデータです。



糸車と引き糸の図

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成30年3月26日～平成30年4月25日)

山形県1、福島県1、埼玉県1、千葉県1、東京都3、長野県1、滋賀県1、京都府2、大阪府2、兵庫県1、奈良県1、和歌山県1、広島県1、山口県1、徳島県1、福岡県1、長崎県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成30年3月26日～平成30年4月25日)

メールを含む各種相談件数6、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数4件11名



〈糸車の構造とツム先について〉

糸車にはいろいろなタイプがあります。わかりやすいのは車の部分の構造の違いです。車輻(スポーク)が放射線状に美しく並んでいるタイプもあれば、十字タイプのものもあります。十字タイプであっても、その材質や細工に差異がみられます。



上段の写真は、車輻が放射線状に並んでおり、動力を伝える糸を受ける部分も竹で細工されている。



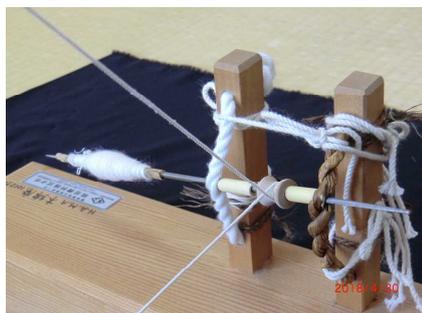
稲垣機料製の糸車



ツム先を下に傾けている



ツム先を向こうに傾けている



ツム先の角度にもそれぞれに特徴がみられます。ツム先を水平にする場合と、下に傾ける場合があります。上の写真は、現在私が使用している糸車です。下の2枚は、土台そのものに足をつけて傾けるタイプの糸車です。土台に足をつける構造は、その地方に特有のものかもしれません。この点は今後の課題です。ちなみに、土台に足をつけている上の写真は、2台とも傾斜角度は26°です。意味のある角度かもしれません。

【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

- ・糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿)

3月26日～4月25日 (作業実日数23日) 糸の総量121.8g (32.48匁) 総時間210分 (3時間30分)

※1分間≒0.580g 1時間≒34.8g (9.3匁)

※平成30年2月25日より、丹羽さんに綿打ちしいただいた和綿(平成28年, 2016産)を紡いでいる。

【研修等の記録】

- ・平成30年3月28日 大徳寺塔頭大慈院(京都市北区紫野)の利休忌月釜茶会にて正客を務める
- ・平成30年4月15日「相楽木綿伝承館：機織り教室上級コース②」(京都府相楽郡精華町)受講
- ・平成30年4月15日「ぬぬぬパナパナ(布の端々)展」(阪急梅田本店9階アートステージ)見学
- ・平成30年4月22日「相楽木綿伝承館：機織り教室上級コース③」(京都府相楽郡精華町)受講